

「主体的・対話的で深い学び」の 実現に向けた授業展開の工夫点

評価の結果を評定に落とし込む方法、評価における課題点の考察等

主体的・対話的で深い学びを実現するには

ICT機器を有効に活用する

生きて働く知識・技能の習得

- わかる授業のための拡大提示

一斉授業で使う、電子黒板・プロジェクタ、デジタル教科書

- 知識・技能の定着・応用のための個別学習

1人1台のPCで生徒の習熟度に応じた個別学習

思考力・判断力・表現力等の育成

- 主体的な学習の促進による深い学び

シミュレーションの活用、データ分析

- 対話的な学習による深い学び

グループまたは個人で調べ、討議、まとめ、プレゼン

「主体的・対話的で深い学び」の 実現に向けた授業展開

- ・今までの授業では実現できなかったことができる。

テレビ会議の機能を使って様々なやりとりができるため、授業中に校外と交流することができる。

「主体的・対話的で深い学び」の 実現に向けた授業展開

- ・生徒のモチベーションが上がる。

画像や動画を活用した分かりやすい授業を行うことができ、生徒の興味・関心を高め学習に対するモチベーションを高めることができる。

「主体的・対話的で深い学び」の 実現に向けた授業展開

- ・生徒が積極的に参加しやすくなる。

発言が苦手な生徒でも、タブレットを使った共同編集などでは積極的に参加しやすくなる。

「主体的・対話的で深い学び」の 実現に向けた授業展開

- ・教員が効率的に授業を行うことができる。

事前にプレゼン等を準備することで、板書時間を削減することができるため、生徒の活動時間を多く確保できる。

「主体的・対話的で深い学び」の 実現に向けた授業展開

- ・情報の利活用が楽にできる。

電子データを扱うことで、リアルタイムの評価をすることができ、生徒へのフィードバックが素早く行える。

「主体的・対話的で深い学び」の 実現に向けた授業展開

- ・ Googleフォームを利用してアンケートやテストを作成できる。また、集計や分析をアシストする機能もある。

「主体的・対話的で深い学び」の 実現に向けた授業展開

- ・教員間、生徒間での情報共有も簡単にできる。

電子データを扱うことで、授業で使用した資料などの情報共有を教員間、生徒間で簡単に行うことができる。

「主体的・対話的で深い学び」の 実現に向けた授業展開

- ・ ストリームを利用した、課題の確認、出欠の記録、情報の共有等が可能である。

まとめ

- ・ Google ドキュメントやスプレッドシート、プレゼンテーションを使うことによって、生徒同士の協同作業や生徒の指導をリアルタイムで行うことができる。
- ・ Google Classroomを使用して、アンケートや小テストを実施することでデータを残すことができる。

まとめ

- ・ 演習問題結果を分析することで理解度を確認することができる。
- ・ 生徒変容の分析ツールとして活用できる。
- ・ 生徒による相互評価ができる。
- ・ データの分析が容易ではあるが、環境整備にはまだ時間がかかり、突発的な対応を強いられることが多々ある。

「主体的・対話的で深い学び」の 実現に向けたICTを用いた授業事例

単元のまとめをグループで行い発表させる。

- 単元で学んだことについて、他者へ伝えることを目的とした発表資料を、グループで作成することで、自分の考えを伝えたり、他者の考えを聞く力がつく。
- タブレットを用いて調べ学習を行うことで、必要な情報の取捨選択をすることで知識が定着する。
- 他のグループの評価をすることで、自分たちの発表を見直し、より相手に伝わるための工夫をすることができるようになる。

「主体的・対話的で深い学び」の 実現に向けたICTを用いた授業事例

課題

- グループで活動することで、他人任せにする生徒が出てきてしまった。
- 情報の取捨選択をせず、そのままコピーアンドペーストを行うことがあった。
- 関係の無いものを調べたり、遊んだりする生徒がいた。

→回数を重ねると、より見やすくわかりやすい資料作りを、率先して行う生徒が増えた。

目的に応じた評価を行うためにはどのような学習活動が適切であるか

知識・技術

- ・ 考査
- ・ プリント
- ・ 成果物

思考・判断・表現

- ・ 考えをプリント等に記入させる
- ・ 考えを発表させる

主体的に学習に取り組む態度

- ・ 調べ学習
- ・ 自主学習

評価の結果を評定に落とし込む方法

- 評価を3段階に分け点数化し、合計点数により評定を決定する。各項目の重要度によって、点数を変えても良い。

例) A = 3点 B = 2点 C = 1点

合計 27~21 20~16 15~12 11~8 7~3

評定 5 4 3 2 1

単元1 知・技A 思・判・表A 態A = 9点

単元2 知・技B 思・判・表A 態B = 7点

単元3 知・技A 思・判・表B 態A = 8点

合計 24 よって 評定5

評価における課題点の考察

- 表現や態度は形に残らないものであり、個人の主観が入り評価が難しい。
 - 動画を撮影し評価をすれば説得力のある評価をつけやすい。
- 担当授業の全生徒の評価を毎時間行うことは時間が足りない。
 - 要点に絞って評価を行うことで回数を減らす。
 - 評価専門の職員を配置し、1人1人の仕事を減らす。
 - ループブックを事前に準備し、当てはめて評価することで時間を短縮する。
 - 画一的な授業、評価をするのであれば、ロボットが授業を行いAIが評価をする。